

不妊治療（体外受精）を始める女性のこころの状態

Mental health and quality of life among women who begin IVF treatment

加藤承彦、三瓶舞紀子（国立成育医療研究センター）

齋藤和毅（東京医科歯科大学）

Tsuguhiko Kato, Makiko Sampei (National Center for Child Health & Development)

Kazuki Saito (Tokyo Medical and Dental University)

Kato-tg@ncchd.go.jp

【背景と目的】

日本社会において、過去 50 年間少子化傾向が続いており、年間出生数は、87 万人まで減少している。その一方で、高度な不妊治療（体外受精や顕微授精など）を受けて、出生に至る数は、年々増加しており、2017 年では年間出生数の約 6% を占めている。不妊に悩む夫婦の数は、5.5 組に 1 組とも言われているが、正確な割合は定かではなく、2017 年においては、年間約 45 万件の治療が実施され、この数は、世界一である。高度不妊治療は、一回（周期）の治療において、数十万円かかるのが普通であるが、保険適応がないため、自費で賄われている。また、経済的な負担だけではなく、精神的、身体的な負担も非常に重いとされている。しかし、日本は不妊治療大国であるにも関わらず、不妊治療をうける女性を対象とした研究がほとんどなく、実態が明らかになっていない。

【方法】

本研究では、体外受精の治療を始める女性を対象とした追跡調査の初回データを用いて、治療を始める、もしくは始めたばかりの時点での女性のこころの状態について分析した。対象者は、249 名である。社会背景因子に関しても、記述的な分析を行った。その際、比較のため、国民生活基礎調査の 2016 年データを一般人口として用いた。

【結果】

社会背景因子に関しては、一般人口と比較して、高年齢、高学歴、高世帯所得の傾向が見られた。こころの状態に関しては、治療開始時点で、すでに悪化している傾向が見られた。メンタルヘルスに関しては、軽度以上のうつ傾向が、半分以上（54%）となっており、中等度以上のうつ傾向が約 25% となっていた。また、不安や QOL（精神状態）に関しても、同様に良好でない傾向が観察された。

【結論】

高度不妊治療を始める女性を対象とした追跡調査を実施するにあたって、治療が長引くに伴って、こころの状態が悪化すると予想していたが、本研究の結果から、すでに治療を開始する時点でこころの状態が良い状態でない可能性が示唆された。今後、治療の進捗とともに、どのようにこころの状態が変化していくのかを分析していくとともに、不妊治療を受ける女性が必要とする支援についても、考察を深め、社会への提言としてまとめたい。